

総務産業常任委員会会議録

日 時 平成30年11月29日（木曜日）13時30分～14時30分

場 所 議員控室

出席者 金木委員長、平山副委員長、船本委員、村田委員、熊谷議長

ワザハバ 寺沢議員、磯野議員、小寺議員、阿部議員、逢坂議員

事務局 井上事務局長、杉野係長

金木委員長

それでは、時間になりましたので、ただいまから総務産業常任委員会を開催してまいります。

本日の案件は、観光事業の現況と対策についてということテーマに進めてまいります。夏の観光シーズンも終わりました、例年この時期にこのシーズンどのような状況だったのかということ報告いただきながら、その中での問題点、課題なども質疑を進めて、今後に向けての対応、対策をしていただくということで開催させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、商工観光課より報告お願いいたします。

1 観光事業の現状と対策について

担当課説明

説明員 商工観光課 高橋課長、富樫係長

高橋課長 13:30

それでは、観光事業の現状と対策についてということで、お手元の資料に沿った形で説明させていただきます。

説明は、担当のほうから。

富樫係長 13:30～13:52

座って説明させていただきます。

では、お手元の資料をごらんいただければと思うのですが、まず1つ目の観光振興事業についてということで、(1)、平成30年度観光振興事業リストということで、別紙の資料1、横の資料です。ごらんいただければと思います。この資料にありますの

は、実施主体としては町ですとか、観光協会、実行委員会などそれぞれあるのですけれども、町がかかわる今年度実施した事業の実績、一部予定も含まれていますけれども、それらを一覧にしたというものとなります。

1つ目として、町内の事業、イベントの中で1行目の第8回はぼろ甘エビまつりにつきましては、甘エビの不漁の中、販売数量は昨年よりも約2トンほど減少しておりますけれども、従来よりも当初から数量は少なくなるだろうというような想定で、パック販売を従来行っていたのですけれども、パック販売に回してしまうと箱がなくなってしまうというようなことで、箱売りの数量を確保するために1箱500グラムに変更するなど、あらかじめ対応したために、イベントとしては大きな混乱はなく、2日間盛況のうちに終了したというところであります。

次の2行目の謎解き・宝探し～オロ坊サンセット王国の秘宝～については、これは観光協会が今年度から新規事業で行っているもので、サンプルですとかバラ園などの市街地の観光施設ですとか中心市街地の活性化というものを目指し、観光客の滞在時間を延長させようとする目的で実施したものとなります。実績としては、初級、状況合わせて210人の参加者がありました。観光協会によるSNSによる周知を主に行ってまいりましたが、新規ということもあって参加者数については若干宣伝不足が否めないというような結果となっておりますけれども、特に今年度は悪天候で島に渡れなかった。足どめされた観光客が多くて、そういった方々に観光案内所のほうからこういったものがあるよというような紹介をしたときに比較的参加される方が多かったというふうにも聞いておりますので、年々定着していくことも考えて観光協会のほうで事業継続いただければというふう考えているところであります。

また、次の離島の謎解き・宝探しについては、これまでの実績から定着してきておりまして、昨年から見ると7日間期間を延長して実施しております。昨年よりも87名多い合計352人の参加をいただいております。特に焼尻が伸びていて、これは焼尻めん羊まつりの集客が例年になく多く、その際に利用された方が多かったことがふえた要因と考えられるところで、これも実行委員会による継続を考えているところです。

以下、天売ウニまつりにつきましては例年同程度の入り込み、それからはぼろ花火大会については天候も今年はよくて、当日のサンセットビーチについては近年にないほどにぎわっていて、駐車場についてもあふれて、盛況でしたし、焼尻めん羊まつりについては特に土曜日の入り込みが多くて、観光ハイヤーですとか、貸し自転車屋も自転車が多くなるほどの盛況ぶりで、イベントについては比較的例年以上の集客となっております。

そして、町内事業の一番下のはぼろ秋まつりにつきましては、今年度新たに実施した

イベントとなりますが、野菜や新米の直売については開始前から多くの方が列をなしていましたし、お昼どきについては会場内が多くの町民でにぎわいを見せておりましたので、次年度につきましても方法はいろいろと考えながら継続できればいいなというふうを考えているところであります。

次に、2の町外のイベント出展、プロモーション活動についてですが、この中で特筆すべきものとしては、2行目にあります新宿タカシマヤ、初夏の大北海道展出展となるかと思えます。これは、高島屋百貨店のバイヤーさんが羽幌の甘エビを催事の目玉としたいというようなことで、漁協に申し出があったことにより実現したもので、漁協による生鮮甘エビの直売ですとか、サンセットプラザによる甘エビの塩ラーメン、それから甘エビのイトインの提供、それから水産加工品ですとかお菓子の販売などの物販を行ったほか、百貨店の正面入り口で天売島、焼尻島写真パネル展をやったり、パンフレットを配ったりだとかというふうなことをやってきております。7日間と催事の期間も長くて、また首都圏で羽幌の知名度を向上させるよい機会となったものと考えております。次年度につきましても、こういう機会があって条件が整えば、事業者のこういった大きな催事への出展を積極的に支援していきたいというふうと考えております。

以下は、札幌近郊での誘客活動ですが、物産イベントへの出展になりまして、下から3行目のツーリズムEXPOジャパン出展ですが、これは留萌管内の取り組みの一つということで、東京ビッグサイトで行われたいわゆる旅行博への出展となります。今年度は、留萌管内の観光情報を国内の旅行会社や一般の方々に売り込みを行ってきましてけれども、次年度につきましてはこういった機会を捉えて、特に離島が売り込みの中心となると思いますが、外国の旅行会社との商談会に観光事業者とも協力をしながら出展することで外国人観光客のさらなる誘客に努めていきたいというふうと考えております。

資料1の本年度の主な観光振興事業実績については以上となります。

続いて、資料2、平成30年度上期観光客入り込み状況についてごらんください。まず、天売、焼尻につきましては、4月を除き各月前年に比べ減少しているということで、上期計では前年より1,430人少ない1万4,643人の入り込みとなっております。この減少要因としましては、高速船の欠航回数が増加したこと、それから特に7月も天候悪かったのですけれども、8月の週末の天候が悪くて欠航が多かった。それから、台風、国道通行どめの影響があったことなど、天候に大きく左右された結果となったというふうと考えております。なお、こういった減少幅を国内客はもとよりインバウンドの呼び込みにより埋められるように、離島観光の宣伝強化をさらに行うとともに、観光協会支部の要望も踏まえながら継続して観光事業者を支援していきたいというふうと考えております。

す。

次に、サンセットビーチにつきましては、7月の土日が下旬になるまで天候が悪くて、そのほとんどが遊泳禁止だったことも影響して入り込みは減少傾向に当初あったのですが、花火大会の土日の7月の下旬から8月については比較的天候にも恵まれて、昨年よりも1,600人ほど多く、ここ五、六年推移している2万3,000人前後を維持した2万3,035人の入り込みとなっております。

次に、各イベントの入り込みにつきましては、先ほど資料1でもご説明しましたけれども、焼尻めん羊まつりがここ数年間では一番の集客があったこと、それからはぼろ秋まつりが今年度から新たに開催されたということにより、その分の入り込みがふえているということになっております。

次のページに行きまして、はぼろ温泉サンセットプラザにつきましては、今年度軒並みふえておりますけれども、これは昨年12月の議員説明会でもご説明してありますけれども、この施設の入り込みの捉え方を今年度より変更したことによるもので、これまでこの施設の入り込みについては宿泊客数と日帰りの入浴客数の合計数でずっと計上してきたのですが、日帰り客のうち、レストランですとか、宴会利用者についても各月で把握していけるということで判断されたので、それら入り込みも今年度当初から追加したことによる増となっております。前年と比較するために、追加したレストランですとか宴会利用者を除きますと、上期の計については4万1,234人ということで、前年からは3,425人減少しています。5月についてはゴールデンウィークの集客が鈍かったということ、それから6月については大雨に伴う国道通行止めによる団体客のキャンセル、ちょうどその翌日、翌々日に大きい団体客が入っていたというようなこともありまして、そういったキャンセルが出たこと。それから、9月については、台風、震災の影響による休業、それから旅行手控えによるキャンセルがあったことが大きな要因というふうに考えられるところであります。

次に、はぼろバラ園につきましては、春先の低温、長雨等が影響しまして、例年よりも開花自体は遅かったのですが、昨年よりも2,800人ほど多い7万2,630人の入り込みとなっております。昨年度園路を再整備したことですとか、それからバラボランティアの方々、それから作業員によって日々手の行き届いた管理がなされているということで、来場者の方からも好評をいただいているところであります。

最後に、朝日公園につきましては、現状を維持しながら現在管理してきておりますけれども、ショウブの開花時期に訪れる方ですとか、春先や秋口のキャンプ客についても年々やはり減少傾向にあるということは明らかですので、後ほど説明しようと思うのですが、今年度内に公園の今後の管理方針については検討していきたいというふ

うに考えているところであります。

資料2の平成30年度上期観光客入り込み状況については以上になります。

初めの資料に戻っていただいて、(3)です。インバウンド対策事業についてですが、本町におけるインバウンド対策については、アの西蝦夷再興協議会とイのるもい地域インバウンド対策会議という組織によって留萌管内の連携した取り組みを中心に実施しているほか、本町独自の対策としては、外国人観光客数の正確な把握を行うための宿泊施設への調査、それから外国人観光客の増加が見込まれる離島地域の観光事業者に対する英会話教室や翻訳機器の貸し出し、英語での離島観光案内サイトの作成と観光案内所での情報提供、宿泊施設の多言語対応化など、観光事業者の意見、要望も随時踏まえながら受け入れ環境の整備に努めているというところであります。

それで、別紙資料の3にあるカラーの資料です。これは日本語、英語両方で、これは今現状は天売のみなのですけれども、離島の観光案内をするサイトのページをお知らせするチラシとなっております。このQRコードから読み込むとサイトのページに飛ぶのですけれども、そこで日本語、英語が切りかえられて、英語でも例えば離島ツアー案内だとか、そういったものも確認いただけるというものになっています。

次のページに両面でありますのは、外国人観光客に宿泊施設のほうからお知らせしたいことすとか、意思疎通を図るためのツールというもので、そういったものを作成したのになります。このほかにも、レンタサイクル屋さんそれぞれありますし、そういった方々も使用できるそれぞれの施設に応じた英語での説明ツールも作成しております、そういったものも事業者に随時配付しているというようなところであります。

また初めの資料に戻りまして、留萌管内でのインバウンド対策の取り組みについてですけれども、アの西蝦夷再興協議会につきましては管内の市町村、それから観光協会、商工会、交通機関、金融機関で組織しているもので、今年度については1,050万円の予算額で、国の地方創生推進交付金を活用しながら、そのほか町としては負担金20万円を拠出して、主に留萌管内の観光プロモーション事業ということで、札幌、旭川発着モニターツアーすとか、テレビ番組の作成、それからツーリズムEXPOジャパン等管外イベントへの出展を行っているほか、ここでDMOの検討も行っているという組織となります。

また、イのるもい地域インバウンド対策会議については、管内市町村と観光協会が組織しております、今年度500万円の予算、その全額を北海道観光振興機構の補助事業を活用して、主に今年度については首長による台湾観光プロモーション、トップセールスすとか、管内への外国人招聘ツアー、インバウンド対策人材養成講習会、いわゆるおもてなし講習会となります。外国人向け観光コンテンツ、商品の検討などを行ってい

るところで、管内としてのインバウンド集客が他地域と比べて弱い地域であることから、各市町村が点で向かうのではなくて、面として強みを織り込んでいこうというための取り組みとなっています。

続いて、2ページに行きまして、2の観光施設の現況と方針についてですけれども、まずいきいき交流センターにつきましては、今年度1階レストラン入り口付近に喫煙所を設置しております。また、加圧給水ポンプについてもつい先日、11月末の4日間の休業期間中に工事が完了したというところです。喫煙室の設置に伴いまして、9月1日から2階フロアの全面禁煙をもう既に実施しております。それに加えて、11月の19日から22日までの全館設備点検等の後、11月の23日から禁煙の客室を拡大しております。今までは喫煙可能な部屋が3階から5階、禁煙部屋が6階だったものを現在については喫煙可能なのが4階だけというような形で、それ以外の3階、5階から6階というのは禁煙部屋というふうに変更となっております。これは、かねてから町からも要請していたこともありますし、指定管理者側としても徐々に禁煙を希望される方がふえてきているというようなことに対応するための変更というふうになっております。また、次年度以降につきましては、劣化診断に基づいて修繕、設備更新を検討していきますが、駐車場の屋外灯の修繕ですとか、空調設備の更新、1階レストラン天井雨漏り対策、それから中型バス更新など、指定管理者とも協議をしながら順次整備に努めていきたいと考えております。

次に、はぼろバラ園につきましては、次年度以降は老朽化した園内のベンチをコミュニティ助成事業、宝くじの助成事業なのですけれども、そういったものがもし採択になれば更新していきたいというふうに考えていることと、売店の設置につきましては継続して検討していきたいというふうに考えております。

次に、サンセットビーチにつきましては、次年度以降は老朽施設の修繕を順次行っていく必要があります。特にヤシの木の照明についてはポールの根本が長年の塩害で腐食しているような状況にあって、いつ倒れてもおかしくないような状況のものの中にはあります。そういった部分の対応も今後していかなければならないというふうに考えております。

次に、朝日公園につきましては、先ほど入り込みのところでもご説明しましたけれども、本年度内に公園の今後の管理方針を検討していきたいと考えているところであります。

最後に、天売、焼尻の自然公園につきましては、町が管理している施設については必要に応じて順次修繕等を行っていききたいと考えております。

最後に、3つ目の北海道「稼ぐ観光」具体化調査実践モデル事業についてですけれど

も、これは全道で稼ぐ観光を促進するため、地域の観光拠点の稼ぐ力を伸ばすことを目的に、来訪者等へのアンケート調査によりデータを収集、分析し、得られた結果に基づき事業計画を策定するモデル事業で、北海道経済部観光局のほうから全道市町村にモデル地域の募集がありまして、それに対して本町が応募した結果、採択され、現在実施しているものとなります。羽幌町以外には名寄市、室蘭市、余市町の羽幌町を含めた4地域が選ばれて、現在実施しているものとなります。本町では、道の駅の中心施設になりますはぼろ温泉サンセットプラザを観光拠点ということで位置づけて、アンケート調査を実施しながら来訪者の実態を把握し、観光施策の方向性ですとか道の駅の活性化の方策を検討していくということとしております。事業内容としては、観光の現状、実態把握、目標数値設定の参考のための来訪者アンケート調査を実施するというものとなっております。別紙の最後につけてあります資料の4、これがアンケート調査の様式で、両面で全てで4ページにまたがるアンケートなのですが、これを四半期ごとに観光施設で実際に職員が来訪客に対して直接アンケート聴取したり、現在はサンセットプラザに常設しておりまして、宿泊者のほうから収集しているというようなものとなります。また、検討会議による協議検討も並行して行っておりまして、構成員については町、観光協会、ホテル、漁協、農協、商工会、商工事業者、交通機関などで、現在まで2回ほど実施しておりまして、年度末までにはアンケートの分析結果とそれを踏まえた道の駅等の活性化事業計画というものが策定される見込みとなっております。

観光事業の現況と対策についての資料の説明は以上となります。

金木委員長

ありがとうございました。ただいま説明をいただきましたので、早速質疑を受けてまいりたいと思います。

—主な協議内容等— 13:52～14:30

熊谷議長 平成30年度の主な観光振興事業実績の中で、先般この11月の15日から3日間か5日間かな、東京の池袋のサンシャインビルでいろんな催し物ありましたよね、それにかなり羽幌からも参加したと聞いているのですが、商工観光課では一切関係していないのですか。

富樫係長 多分アイランダーだと思うのですが、池袋のサンシャインでやっている事業です。主管は地域振興課のほうで主管してまして、そこに

地域振興課の職員から離島の住民、それからうちの職員も一緒に行って、共同で参加しているような形。

熊谷議長 それはそれで行ったと。

富樫係長 行っています。

村田委員 何点か、まずインバウンド対策の天売島の資料3が出ていますが、今の説明でいくと日本語と英語ということだったのですけれども、今北海道に来ている外国人の観光客で多分一番多いのは台湾だとか中国、それから韓国、もしつくるのであれば、旭川近郊に来る外国人の多い国を調べて、英語だけでなく、今どこ行ってもそういうのは2つでなくて3つも4つも書いてあるのが主になっているから、そこら辺がそういうふうにもしのできるのであれば、そういうふうにしてインバウンド対策進めたらどうでしょうか。

富樫係長 今ご説明したものについては、これは天売の協力隊が英語翻訳できるということで、それで自前でつくったものになります。ですので、多分中国語、簡体字とかと言われるものだとか、そういった部分が必要になってくると思うのですけれども、そうすると費用面で翻訳料とかというのがかかってくる部分があるので、この中にはまだそこまでは入れていないのですけれども、ただ観光のリーフレットか、そういった部分、これからつくる分についてはそういった多国語で表記できるようにしていきたいなというふうには考えています。

村田委員 せっかく対策をするのであれば、そこまでしてもらいたいなと思います。それから、資料に2つ出てきたのですけれども、説明の中で今年度中に朝日公園の管理体制の方向性を決めたいという説明があったのですけれども、前から早いうちにその方向性を出したいということはずっと聞いていたのですけれども、1点だけ、どういう方向になるかは別としても、今終年というか、春から秋までの間でキャンプで泊まれるところは朝日公園しかないわけですね。サンセットビーチは夏だけなので、それはどういう形にしても、もし自転車で来るにしても、いろんな形で羽幌町

に来る中で、キャンプで泊まれるところの確保というか、それだけは外さないで、どこになるかは別としても、朝日公園のままなのか、それはおいておいても、今そういう旅行者が自分の中で多いような気がするの
で、そこら辺は検討の中に入れてその方針を決めてもらいたいと思う
のですけれども、どうでしょう。

富樫係長 実際自転車のお客さんですとか、バイクのお客さんですとか、キャンプ
をやられる方って結構朝日公園は今でもいらっしゃるのですけれども、
ただそれもやっぱり年々見ていくと減ってきているような状況があるの
です。ただ、少ないお客さんでもそういった施設を持つ必要があるのか
というようなことも含めて、キャンプ場として設置するということにな
れば、ショウブは別としても、草刈りですとか、あとトイレ、水回りと
いうのは最低限やっぱり必要になってきますので、そういったものが今
現状のもので何とかやりくりできればいいのですけれども、トイレが何
ととっても限界に来ているというようなこともありますので、そこをど
う対応するかということも出てきますので、キャンプ場、確かにおっし
やるように終年で使えるところというのは朝日公園しか現状ない形にな
りますので、そこは踏まえながら検討していきたいなと思っています。

村田委員 そういう答弁だったので、朝日公園がもし縮小していくのであれば、違
う場所でのキャンプ場。入り込みが少なくなっている原因は、あそこは
場所的にわかりづらいだとか、いろんな部分があると思うので、考え方
を変えれば、例えばスポーツ公園にそういうことを考えるだとか、いろ
んなことが考えられるので、そこら辺含めて方向性を決めてもらえれば
と思います。

富樫係長 踏まえながら検討してまいります。

船本委員 ちょっと村田委員とダブる関係もありますけれども、朝日公園で今年キ
ャンプした人数というのは、何件くらい件数あったのですか。

富樫係長 内訳まで今持ってきていないですけれども、毎日の管理日誌を見たらキ
ャンプ客と分けて記録しているはずですので、今はちょっと何人、何人

という内訳はご説明できないのですけれども、後ほどでよければお答えをしたいと思います。

船本委員 前々からいろんなことというのか、ちょっと心配する部分があって、例えば使用の問題とか、あと小川というのか、何というのかわからないけれども、におい、ごみの関係があるので、当時は炭を春、秋入れるだとかという経緯があるとか、私も1年に1回か2回見に行くのだけれども、ああという感じと、それと働いている人に聞いたのだけれども、キャンプに来ている人はそんなにいないような感じ。それと、さっき村田委員ができれば羽幌町の観光の中にもキャンプ場、キャンプできる場所があるのだよということも必要だということも言っていたのだけれども、確かにバイクだとか自転車で来る観光客というのは結構あるし、今は道の駅のバラ園でキャンプさせているのですか、全然させていないのですか。

富樫係長 基本的には、させていないというか、禁止です。

船本委員 余り人数が少ないからというようなさっき意見も出ていたんですけども、人数がなぜ少ないのかと。さっきも言ったように、朝日公園まで、あそこまで本当にわかって行けるのか。多分観光客ならわからない人もいるだろうし、今は少なくとも徐々にふえてくるという可能性だって結構あると思うのです。キャンプという言葉は観光から外さないほうが私はいいと思うのです。羽幌町全体の観光から見ていって。前は、いいとは言わないけれども、やっている人は、余りマナーの悪い例えばロープ張って洗濯するような人はバラ園ではだめだとちょっと注意すると。あとは、いいかいと聞かれたら、まあまあで置いたらどうだと結構置いた経緯がある。それで、結構ふえた。それに伴って、朝日のほうがいい人は朝日のほうへ結構行ってやっていたという経緯もあるし、キャンプというのはさっき村田委員が言ったように大事にして、羽幌の観光の一環として考えてやっていったほうがいいのでないかなと思いますし、朝日公園というよりも、施設の現状と方針についてのこれを見ますと、継続検討、当面継続、管理方針を検討とかと、検討、検討というようなことばかり出てくるのだけれども、当面だとか当分だとかという言葉をよく文章の

中で使うのだけれども、ここでいう当面の継続といったらどのくらいの期間考えているの。

高橋課長

とりあえず現状当面ということでは見ているのですけれども、それを踏まえて今年度中に、いつまでということは言えるかどうか、ショウブ自体も去年から見るとまた今年盛り返したとかという部分もあって、何らかの管理はしていかなければいけないだろうということもあるので、現状はそのまま維持しつつ、老朽化した建物は先ほど言ったようにキャンプ利用等々もあるということで、老朽化した建物については直すのか、それとも撤去するのか。ただそのまま水道は置いておくけれども、草刈りだけしてキャンプ場として残すのかというところも含めて今年度中にある程度の方角を出したいなど。それで、出した上で、当面という言葉にはなっているのですけれども、何年ぐらいまでにはどうしたいというところまでは持っていきたいなという考えではおります。

船本委員

朝日公園については、何年も前からいろんな課題があるのだけれども、ショウブがあんなになってしまって、当時はショウブを売った時期もあったのだ。私はもとちょっとやったことあるものだから、年に1回か2回見に行くのだけれども、あれだけのショウブがなくなったというのは、手で草を取るのが大変だということで間をがばがばあけていった経緯があるのです。機械を中に入れて草刈っていくと。あんなことやっていたら、どんどん、どんどん減っていくとなる。それがだめになって、副町長が出てきたときかな、桜を植えるというような意見だった。そのときは私も言ったのだけれども、我々の大先輩が朝日に、今スポーツ公園だとかあちこちにライオンズだとかあちこちの団体がやってくれているけれども、当時朝日にやるといったときに、土の質というのが、それは村田さんが詳しいけれども、その質を調べたら桜はだめだということで、その書類は昔の書類残っていると思う。また同じことを新しい人が言ったら、繰り返しているような気するのです。それは話しているはずなのだ。それで、桜は今スポーツ公園内に、まだほかのところにもあるのかな、咲いているのだから、またそこにやるのであれば、がちとした計画を立ててやって、そして施設がもうだめになってきているのだから、あのトイレではちょっと無理だと思うので、それとあと川の水をどうす

るのか、今でも炭は入れているのですか、それちょっと聞かせてください。

富樫係長 炭は入れてはいないです。

船本委員 炭入れていなければ、結構におい出ますよ。前は、春と秋と2回入れていた。それでも雨のひどいときなんかは、においがやっぱりきた。あなたたちはいつも行っていると思うけれども、現場を持っているところは現場中心主義、商工観光なんかは特にそうだから、できるだけそういう形で。朝日公園継続してやるのか、やらないのか。ただ、私が思うのは、羽幌町の事業というのをやらなければならないものがたくさんあると、その中にどんどん、どんどん手広げていって、お金があるのならいいのだ。限られた金の中でやるとなれば、どんどん手広げていったって、普通民間だったら個人のうちだってやらないです。だから、そこら辺考えて、やめるのならやめるようなものもつくっていかなかったら、町民が納得してくれるのであれば朝日公園やめる、ここもやめるだとかというのならいいけれども、どんどん手広げていったら最後に大変でないかなと思うのです。そこら辺も理事者にしっかりと伝えて、やっぱり原課でないといけないから、やってほしいなと思うのですが、課長、どのように考えていますか。

高橋課長 委員おっしゃるとおり、お金が無限にあるわけではないので、こういった施設は前々から廃止を含めてという協議がなされた中で、委員の意見もありますので、とりあえず今うちで考えているのは当面の間という部分での報告にはなったのですけれども、委員のご意見等を踏まえて、理事者のほうと協議しながら進めていきたいと思えます。

平山副委員長 村田委員と船本委員がかなり言ってくれたので、あれなのですが、朝日公園の入り込みの人数ですか、年々減ってきていると。本当は、その中でキャンプに利用しているというか、キャンプ張った人数が見えればもう少しわかりやすかったかなと思うのだけれども、そこまで数が出ていないということなので、私も前々から朝日公園のショウブに関しては、多分若い人は余りあそこに足を運ばないのではないかと、その辺では考え

たほうがいいのではないかということを書いてきています。ただ、今ここにきて、まだあそこはキャンプを利用する人がいるということなので、その反面ショウブのほうはどうのこうのと、管理が大変だということなので、当面管理方法は先ほど考えて検討しますということなのですけれども、羽幌町にとってこのキャンプ場が位置づけとして本当に必要なのか、必要でないのか、そこまで分析するというか、考えて、やはりキャンプ場があったほうがいいのではないかというのであれば、朝日公園ばかりが場所ではないと思うのです。外から来る人たちにもわかりやすいような場所につくるというか、設けるのも私は一つの手ではないかなと思うのです。浜のほうは泳ぐ時期になったらキャンプ張ったりすると思うのですが、キャンプというのは早かったら5月とか6月ぐらいから利用しますよね。だから、その部分で羽幌町としてキャンプ場が本当に必要なのだという思いがあるのであれば、場所の設定とかもう一回検討して考えたほうがいいのではないかなと私は思います。朝日公園のショウブについては、私は前々から、申しわけないのですが、反対しているほうですから、ショウブ園に関してはもう一回これも考え直して、必要がなければという、一遍には廃止できないかもしれないけれども、縮小に向かってやっていくべきではないかなと私は思いますが、その辺どうでしょう。

高橋課長 平山委員おっしゃるとおり、キャンプ場という位置づけが今羽幌町にとってはちょっと不透明な部分があって、あいているから朝日公園という流れで、10年ぐらい前ですかね、整備してキャンプ場にした経緯もあるので、今おっしゃるとおり自転車やバイク、ビーチがあいている期間はいいのですけれども、それ以外のということでもいないというわけではないので、その辺も踏まえて、場所も踏まえてこれから羽幌町のキャンプ場ということで検討していきたいとは思っています。

平山副委員長 もう一点だけ、羽幌公園、先ほどベンチの更新の部分で宝くじのものでということなのですが、もし採択にならなかつたら更新はしないということなのですか。

富樫係長 新規で更新するのはやっぱりかなりの費用がかかるので、こういった財

源がないとなかなか一気に更新は難しいので、何とか今のものを塗装しながらとか、それでも木材自体がもう傷んできているという部分があるので、本当は更新したいのですけれども、こういったものがついたら更新すると、それがもしつかなければ、何とかごまかしながらというか、現状のものを使えるまで使っていきたいなというふうには思っていますけれども、ただ昨年再整備した関係で周りがきれいになった分、ベンチの汚さというか、そういったものが余計目立ってしまうというようなことで、財源がもしあれば、可能であればそういった更新していきたいという思いがあります。

平山副委員長 羽幌公園の売店の設置のことについては前々から委員会の中でも出ていたはずなのですが、今の段階でどのような検討なさっていますか。

高橋課長 売店に関しては、去年まで建ててもらおうとかと、そういうような計画も予定としては立てていたのですけれども、今回理事者等々と現地回った段階で、トイレも相当老朽化しているという話で、それを含めて、ベンチなり売店とトイレも総合的にということでの考えをしたほうがいいのではないかとということで、今それに向かって検討中でございます。

平山副委員長 それは、いつぐらいまでに結果を出したいと思っていますか。

高橋課長 そちらのほうも、さっきのベンチではないのですけれども、財源がないところもあるのですが、道の駅のトイレ自体が和式が多くて、洋式が身障者用が1つ、それしかないところもあって、和式の便所ということで道の駅でもかなり珍しいほうになってきているので、建て替えできればいいのですけれども、先に先行して洋式に直すという部分も含めて検討しているのです。できれば洋式に直すという部分も早いうちに、来年なら来年にはやりたいのですが、それも先ほど言ったように何かの財源を使ってということになると思いますので、その辺を見ながら、早くやりたいとは思っております。

平山副委員長 確かに財源、お金のかかる問題ですから、ただ財源はかかりますけれども、この場所は観光客が結構寄っていくところですよ。だから、お

金のかかるのはわかるのですが、外から来た人たちが羽幌のこういうところがいいよとか、そういう思いを持ってもらうためには、お金のかけ方というのか、こういうものは早急に、早急にと言ったらちょっと変なのですけれども、私はやる必要があると思うのです。確かに財源のほうは厳しいとは思いますが、その辺はほかのものと検討しながらやってほしいなと私は思うのです。これだけ地域も疲弊してきていますし、観光客の人が少しでも多く羽幌に入ってきていただけるようなことをやっぱり考えていかなければいけないのかなと私は思っていますので、その辺をお願いしたいのですが、どうでしょう。

高橋課長 委員おっしゃるとおり、道の駅のトイレ自体かなりお客さん利用されていますので、あそこを使えないとなるとホテルまで行けという話もできないので、なるべく早い段階で、新しく建てるのか、とりあえず改修するのかというところの道筋を考えていきたいと思います。

船本委員 平山委員の関連になるのですがけれども、売店は前々から言われている。今トイレの話が出ました。財源がどうのこうのと。私は、まず場所どうなのと。前々から言っているのは場所の問題で、あの芝生というのはやっぱり大事にすべきだと。今外来種どんどん飛んできて、タンポポ、そういう形になってしまったけれども、あれだけの芝生というのは、当時STVの旭川放送局長が来て、これだけのものはないよと、大事にしないよと。そして、外来種のタンポポが入ってきたらすぐ取って、種を植えてきちっとしていたのだけれども、今行ってみたら8割、9割が外来種だという形になっているけれども、やはりあの場所は僕は大事にすべきだと思う。いろんなイベントの関係もあるから。そうすれば、売店を建てる、トイレもやり直すと。中だけかえるというのなら別だけれども、売店をどこに建てるのと、問題は場所なのだ。前々から、それは前の課長も話している。ここの売店というのは、当時ホテルのほうの従業員の余力でやろうと、ずっとやったって、これは個人で誰か、公募してやったとしてもペイしないのだ、何カ月かの期間しかないから。よそみたいに、うちの道の駅はご存じのとおり相当古いから、当時はトイレと電話があればどこでもいいという形で、開発で何とかやってくれと言ったから、やった経緯があるのです。今は売店といたってすばらしい。

あれだったら年中来ると思うのだ。うちらは、まず場所がないのだから、ちっちゃいもの建てるのだったら、それこそホテルの余力ぐらいでなかったら、民間に誰かやってくださいと言ったって、ペイしないから誰もやらないと思う。それやるのであれば、バラ園も全部工事やったでしょう、入れかえたでしょう、バラ園。年数たてば、皆接ぎ木だから入れかえなければならないから。そのときに考えるべきだと思う。今は全部整備されて、売店というのはみんな頭の中にあるけれども、全然考えていないなと私は思っていたのだ。本当にもったいない。だから、やるのであれば、小さいものでホテルの人たちの余力でもってやってもらうか、もったいないと思うのだ。お客さんがあれだけ来て、何も買うところないのだから。ホテルに来たら買えるといったって、あそこでアイスクリーム食べるのとホテルで食べるのと全然違うからと私は思います。これは私の考えです。

1点お聞きしたいのだけれども、前にも話しているのだけれども、農村公園の入り込みというのはこの表に出てきていないのだけれども、どういう形になっていますか。

富樫係長 去年は多分この一覧に載せていたのですけれども、農村公園とベストパークもあったのですけれども、去年そういったお話も踏まえて庁内で検討して、観光施設という位置づけ自体どうなのかというようなことで、所管課といろいろと調整して、町民のいわゆる憩いというか、観光客向けの公園ではないだろうというようなことで、現在については4月から町民課のほうに移管したという経過があって、この一覧から除いているということになっています。

船本委員 そのとおりだと思います。わかりました。

村田委員 1点、先ほど稼ぐ観光のアンケートをとって、今年度中に集計をしたいと言っていましたね。その集計した中で、最後の下にある道の駅等活性化事業計画策定というところに結びつくと思うのですけれども、この事業計画の策定というのは目標はいつまでつくろうと思っているのですか。

富樫係長 道の事業なのですけれども、この事業自体単年度事業なので、今年度中

に全てでき上がる形になっています。事業計画自体も、ひな形ぐらいは今現状つくられてきていて、このアンケート自体も我々は収集するだけと、あとは機関があって、そういった業者があって、それを収集、分析してくれると。それを踏まえて事業計画に置きかえて、例えばどこから来ている人が多いのかですとか、羽幌町でどれぐらいお金使っているのかというようなことも踏まえて、ではどこにターゲットを置いて、どこにPRしていくのが効果的かですとか、どういった部分を伸ばすべきかとかというようなことがそういったデータを踏まえて判断できるというようなことで、そういったような事業計画になるかなというふうに思います。今年度中にでき上がるというふうな予定になっています。

村田委員 自分は、今年度中にそこまでいくというような、そこまでスピード感持ってやると思っていなかったもので、そうすると、このアンケートがどのぐらいとられたかも私わからないのですけれども、集計するのだから1週間やそこらでできるかどうかわからないのですけれども、今年度中にそういう中身とか、そういう部分を何かの機会に知らせてもらって、策定する前にも見せて説明してもらって、今年度中にということがあれば、かなりスピード感持ってやらないとできないと思うので、そういう計画であればスピード感持ってやってもらいたいと思います。

船本委員 最後に、今村田委員が言ったこと、これは北海道観光振興協会というのか、そういうところでやって、北海道の道の駅の協議会みたいのあるでしょう、そういうところなんかもお金出しながら、北海道でアンケートをとって、一つの資料というか、そういうようなあれをつくるということだけで、羽幌町が単独でこれやるわけではないのですよね。これは、いつ成果が出てくるのかどうかというのはわからないのでしょうか。

富樫係長 あくまでこれは北海道の事業として、全て会議もそうですし、アンケート収集は現地でなるべくやってくださいという形で、ただ収集したものの分析ですとか、そういったものは道が委託した専門の業者が分析することになっています。羽幌町は羽幌町で、ほかにやられている地区は地区ということで、基本的には多分アンケート調査様式は変わらないと思いますけれども、これらは道のほうで当然示したものであります

し、道がある程度先導してくれて進めていけるというような内容になっています。北海道のほうでJTBさんのほうに委託をし、そういった部分の仕切りはJTBが行っているというような感じの事業となっています。

船本委員 北海道が主体として、道の駅のある自治体に依頼来ているのか、北海道全部なのかわからないので、それちょっと。

富樫係長 道の駅の団体は全然関係なくて、多分道の駅の協議会あると思うのですが、それではなくて、まさに道庁さん、北海道の観光局のほうの事業ということです。

船本委員 このアンケートの内容で羽幌町として使える部分というのは結構あるのですか、内容的に。

富樫係長 特に注目している部分については、羽幌町で幾らお金落ちているのか。それぞれの拠点、夏、観光期については島でもそれぞれアンケートもとっていますし、羽幌のフェリーターミナルでもやっていますし、バラ園でもやっていますし、そういったそれぞれの箇所でそれぞれやっていますので、例えばバラ園にはどういうお客さん来ているのか、日帰りの客が多いのか、日帰り客であれば当然宿泊しないので、客単価は低いという形になりますので、そういったものも明らかになってくると。それによって、ある程度観光による経済効果というもの等出てくるのではないかなというようなことで、最終目標は町としては観光の消費額、経済効果等々をはかればいいなというのが一番の思いで、手を挙げさせてもらってやっていると。道のほうでは、今年度4地域でやった成果として、観光消費額ですとか経済効果を比較的簡単にはかれるようなツールを全道に公開して、それを使ってもらいたいというような思いもあるそうですので、そういったものも踏まえながら、来年度以降そういったデータもお示しできるのかなというふうには思っております。

金木委員長 私2点ほどお聞きしたいのですが、私も毎日ホテルに行っているわけではないので、きのう、今日現在どうなっていたかちょっと定かではない

のですが、表玄関の扉、回転する自動扉、まだ壊れているというか、中止になったままなのかどうか、その辺のことと、あと16日にうちら議員もホテルに行って町の功労者の祝賀会に参加したときに、2階の男性用のトイレですが、二、三カ所使用禁止の札がかかっているところもあって、故障するのはあることですが、いつまでもそのようにしておくのもいかなものかと。そういうところ、本当に目につくところは可能な限り早く修繕、修理するべきではないかという気がするのですが、どういった状況なのか、その修繕の見通しなどお聞きしたいと思います。

富樫係長 正面玄関の回転ドアのガラスというか、そこはつい先日の19日から22日まで4日間休業して施設内全部点検しているのです。その間に工事というか、修繕して、今はもうブルーシートもとれて、直っているという形になります。2階のトイレについては、ちょっと把握していなかったものですから、ホテル側のほうにもそういった部分を早急に直すようにというようなことで確認しておきたいなと思います。

金木委員長 もう一点ですが、資料2ページ目にありますいきいき交流センターの次年度以降の修繕等々、中型バスの更新とかと幾つか述べているのですが、これは今の時期ですから、予算要求をしているという押さえ方でいいのか、その辺です。2月、3月で削られるということもあり得るのかなのか、この項目についてはどういう扱いになっていますか。

富樫係長 一応次年度以降とさせてもらった理由として、例えば1階レストランの雨漏りについてはすぐ直したいのですが、どこから漏れているのかというのがなかなか把握がつかなくて、つい先日うちの技師と、あと業者さんに立ち会ってもらっていろいろ調査したら、2階のよく使われる海峡の間のところ。和室から出た外側に砂利のテラスみたいなところがあるのです。その砂利の下が土になっていて、その下に防水あるのですが、どうやら多分そこではないかというようなことで、ある程度目星はついたのですが、それを全部めくって見てみなければはっきりわからないというようなことで、ただそれも設計するということになるとなかなか時間かかるというようなことで、この中に当初で間に合うもの間に合わないものとあるのかなと思います。緊急性に応じ

て、そういった部分は整ったときに対応していく必要があるのかなというふうには思っております。これが全て当初予算に反映されるかどうかは別としても、順次やっていきたいなと思っている内容となります。

金木委員長

そのほかいかがですか。(なし。の声) では、ないようますので、これで質疑を終えていきたいと思えます。また新年度予算編成に向けていろいろ忙しい時期になるかと思えますが、引き続き検討を強くお願いしたいと思えます。以上で終了します。ご苦勞さまでした。